

約数（その1）

【定義】 約数：ある数を割り切ることのできる整数を、ある数に対しての約数という。
また、「1」は全ての整数の約数です。

約数の求め方は2通りあります。どちらもやってみて、自分に合う方で覚えましょう。

（その1）ある数を2つの整数のかけ算であらわす。その数が全て約数となる。

（その2）前の単元でおこなった、ある数を素数のかけ算で表わす方法をおこない、そのかけ算を使って表現できる数全て+「1」がある数についての約数

説明をするページなので言葉で書いてみましたが、本当に分かりにくいので、例題で覚えましょう。

【例題】

18の約数を全て答えなさい

《解答その1》

$$18 = 1 \times 18 = 2 \times 9 = 3 \times 6$$

（全て2つの整数のかけ算で表しています
この式に中に出でてきている数全てが18
の約数となるのです）

解答：1、2、3、6、9、18

《解答その2》

$$18 = 2 \times 3 \times 3 \quad (\times 1)$$

（約数に1が入っている
ので（×1）を入れると
分かりやすくなります）

2	18
3	9
	3

ここで出でてきた数字で全てのかけ算を考えると

- $1 \times 2 = 2$
- $1 \times 3 = 3$
- $2 \times 3 = 6$
- $3 \times 3 = 9$
- $2 \times 3 \times 3 = 18$

（↑が分からない人は素数
の単元をやりましょう）

上の答えに「1」をくわえたものが答えになるので

解答：1、2、3、6、9、18

この約数の単元では《解答その1》で問題に対する答えを表していきます。